

公衆衛生看護学Ⅱ実習

1) 実習目的

高齢者の健康の保持増進および生活の安定を目指した地域包括支援センターの活動から保健師の役割を考える

2) 実習目標と到達目標

実習目標	到達目標	学習の視点
(1) 地域包括支援センターの担当圏域の高齢者の特徴および地域の特徴を説明できる	①地域で生活する高齢者の特徴を説明できる ②担当圏域の統計情報等を基に、地域の特徴を考察し、説明できる ③地区踏査により、地域の特徴について理解を深めることができる	地域診断
(2) 地域で生活する高齢者の健康と生活についてアセスメントできる	①高齢者の個々のニーズや必要な支援を理解することができる ②地域で生活する視点を踏まえ、多面的にアセスメントすることができる	高齢者の健康状態と生活背景 多面的・継続的な支援の視点 潜在化・顕在化した健康課題
(3) 高齢者に対する介護予防ケアマネジメントの必要性について理解できる	①介護保険制度について理解できる ②介護予防事業を通して介護予防活動の効果について考えることができる	介護保険法と介護保険制度の動向 介護予防重視型システム転換の背景 介護予防ケアマネジメントの流れ ICFに基づいた自立支援 領域横断的支援の展開
(4) 地域にある社会資源を把握し、活用方法について述べることができる	①地域にある社会資源を把握できる ②関係機関との連携・協働を理解できる ③インフォーマルサービスの内容とその活用方法について理解できる ④自主グループへの支援や連携について理解できる	社会資源の活用および評価 権利擁護や成年後見制度 関係機関の機能と役割
(5) 地域の健康課題を把握し、解決に向けた取り組みについて考えることができる	①個々の健康課題を地域の健康課題に発展させることができる ②担当圏域の地域包括ケアシステムを理解できる	ヘルスプロモーション 地域住民、関係機関や他職種との協働 地域づくり 地域包括ケアシステム 地域ケア会議

3) 実習展開

	1日目	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
場所	学内	臨地（地域包括支援センター）								学内
内容	課題	家庭訪問、健康教室、介護予防事業への参加など								まとめ

学内実習の展開

・1日目学内実習

目的：担当地域の特性を知るとともに、地域の社会資源について理解を深める

タイムスケジュール	実習内容
9：00～12：30	事前課題確認、知識確認テスト
13：15～16：45	施設ごとの健康教育等の準備

・9日目学内実習

目的：地域包括支援センター実習を通して得た学びをまとめる

タイムスケジュール	実習内容
9：00～12：30	グループで担当地域の地域診断と学びを発表
13：15～16：45	全体討議

4) 事前学習

事前学習課題の提出は実習前の指定した日とする。

- ・地域包括支援センター設置の背景とその役割、業務、法的根拠
- ・実習地域包括支援センターの担当学区の地域診断

5) 実習上の留意点

- (1) 実習では、あらかじめ、各自の学習目標や視点を明確に持って積極的に実習に臨む。
- (2) 個人情報保護については、本校の実習記録の取り扱いに準じる。
 - ・対象者の個人が特定できるような内容の記載はしない。
 - ・実習記録は必ずファイルにとじる。訪問時ファイルは持っていない。
- (3) 実習にふさわしい節度ある態度、服装・靴・髪型で臨む。
- (4) 家庭訪問や地区踏査のために、徒歩や自転車、公共交通機関等を使用する。安全に留意するとともに、出かける時や施設内に戻った時には必ず指導者や教員に報告する。

6) 実習評価

- (1) 他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。
- (2) 自己評価は学生自身が行う（ボールペンで記載する）。

7) 実習記録・その他の記録

記録用紙	枚数	備考
公衆Ⅱ-1) ① 日々の記録（地域包括支援センター）	8	
公衆Ⅱ-2) ① 家庭訪問フェースシート（高齢者）	2	
公衆Ⅱ-2) ② 家庭訪問計画書	2	
公衆Ⅱ-2) ③ 家庭訪問実施記録	2	
公衆Ⅱ-3) ① 保健事業実習記録（事業における学び・考察）	8	PC 可
公衆Ⅱ-3) ② 保健事業実施記録	8	
公衆Ⅱ-4) ① 地図統計計画書	1	PC 可
公衆Ⅱ-4) ② 地域診断	1	PC 可
公衆Ⅱ-5) ① 健康教育企画書	1	PC 可
公衆Ⅱ-5) ② 健康教育実施記録	1	PC 可
公衆Ⅱ-6) 実習まとめ（地域包括支援センター）	1	PC 可

公衆衛生看護学Ⅱ) 実習 実習評価表

学籍番号		学生氏名		欠席時間数	
実習施設	地域包括支援センター	実習期間	年 月 日～ 月 日		
評価項目				自己評価	他者評価
実習 目標 1	①地域で生活する高齢者の特徴を説明できる			/10	/30
	②担当圏域の統計情報等を基に、地域の特徴を考察し、説明できる			/10	
	③地区踏査により、地域の特徴について理解を深めることができる			/10	
実習 目標 2	①高齢者の個々のニーズや必要な支援を理解することができる			/5	/10
	②地域で生活する視点を踏まえ、多面的にアセスメントすることができる			/5	
実習 目標 3	①介護保険制度について理解できる			/5	/10
	②介護予防事業を通して介護予防活動の効果について考えることができる			/5	
実習 目標 4	①地域にある社会資源を把握できる			/5	/20
	②関係機関との連携・協働を理解できる			/5	
	③インフォーマルサービスの内容とその活用方法について理解できる			/5	
	④自主グループへの支援や連携について理解できる			/5	
実習 目標 5	①個々の健康課題を地域の健康課題に発展させることができる			/15	/30
	②担当圏域の地域包括ケアシステムを理解できる			/15	
実習 態度	①期日までに必要な学習ができる				
	②看護学生として責任感をもって行動できる				
	③生命の尊厳と権利を尊重し、主体的に対象との関わりができる				
	④グループ内での役割を果たし協働できる				
	⑤助言に対する内省行動ができ、自己の課題を明確にできる				
コメント				合計点	実習成績
実習指導者			担当教員		

実習目標 1～5：点数で記入

実習態度評価基準：S 優れてできる A できる B 不十分さを残すができる C できな

公衆Ⅱ-1) ① 日々の記録 (地域包括支援センター)

学籍番号		学生氏名	
月 日 ()			
本日の 目標			
実習計画 AM		PM	
実習内容		目標に対する考察	
助言			

公衆Ⅱ-2) ① 家庭訪問フエイスシート (高齢者)

学籍番号		学生氏名	
氏名	氏 男・女 (歳代)	住所 ()	学区
既往歴、現病歴、健康状態	援助開始に至った動機		
家族構成 (構成区、年齢、職業、健康状態、他の家族の支援、家族関係など)	生活環境、住環境、近隣地域との交流		
援助経過			
保健・医療・福祉サービスの利用状況			

事業名	
法的根拠・事業目的	
対象者	
事業年間計画 (今回の位置づけ)	
周知方法	
実施内容 (運営方法・スタッフ・ 来所者の様子等)	
実施後のフォロー体制・事後指導 他の保健事業との関 連・他機関・他職種との 連携	

事業における学び・考察	
助言	

<p>踏査目的</p>	<p>踏査日柄</p>	<p>踏査計画 <実施日時> <踏査予定地区・その地区にした理由> <踏査時に特に着目したい点> <踏査時に留意する点></p>
-------------	-------------	--

<p>地域の特徴</p>	<p>健康課題</p>	<p>調べてもわからなかったこと・もっと調べたかったこと</p>
--------------	-------------	----------------------------------

公衆Ⅱ-5) ① 健康教育企画書

メンバー: _____

対象:

健康教育のテーマ:	
テーマ設定の理由:	
対象の特性:	開催日時 年 月 日 時 分 ~ 時 分
目的:	開催場所:
目標	周知方法:
評価方法:	必要物品
会場設営	

展開	時間	内容	使用媒体・留意点	
導入				
展開				
まとめ				

公衆Ⅱ-5) ② 実施記録

学籍番号	学生氏名	
学籍番号	学生氏名	評価考察
学籍番号	学生氏名	実施内容・結果
		助言

■実習を通して気づいた地域の高齢者の健康課題

◆高齢者が生き生きと暮らせる地域にするために必要な支援(図でもよい)

■

■健康課題に対する支援体制の実際